

長狭小唄

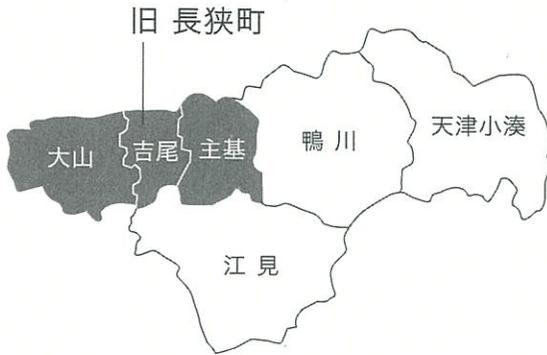
NAGASAKOUTA



長狭小唄とは

「長狭小唄」は、昭和30年、大山村、吉尾村、主基村が合併して長狭町が誕生し、鴨川市が誕生する昭和46年までの間に作られ、歌われていました。

長狭地域の米作りと自然豊かな里山の風景を表現した唄で、1番は稲作の様子を、2番は長狭地区の豊かな情景を、3番は長狭地区の発展を願う内容になっています。踊りも歌詞に合わせたものになっており、稲を刈る動きや手を大きく広げて地域の発展を願う動きがあります。



長狭小唄保存会

子どもの頃、長狭町の小学校や中学校で歌や踊りを習った人々が、地域のことを歌った素敵な唄を失くしてはいけない、知っている人がいなくなってしまうとその唄は消えてしまう、と長狭小唄保存会を設立しました。

長狭小唄保存会は、「長狭小唄」の歌と踊りを復活させ、普及させることで、高齢化と過疎化の進む地域の活性化と町おこしを目的にしています。長狭地区だけでなく他の地域で行っているイベントでも歌と踊りを披露したいと考えています。



長狭小唄保存会
練習風景

《随時会員募集中！ イベント参加のご依頼、お問い合わせは》

長狭小唄保存会 会長 / 石井一巳 Tel.090-8856-0822